社団医療法人 養生会　月刊発行新聞

かしま ほっとHOT ほっとhot 通信

8月号 Vol.331
令和2年（2020年）8月1日発行
■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088
ご意見・ご感想は…
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室（江坂 宛）まで
r-esaka@kashima.jp

ホームページ http://www.kashima.jp
かしま病院 検索

スマートフォンをご利用の方は、QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

1-2 巻頭特集
『新型コロナウイルスに係わる体制変更について』

3 糖尿病のおはなし
『インスリンについて -第1回- 』
かしま糖尿病サポートチーム

3 コラム ひんがら目（158）
『プラスチック製のレジ袋が法律で有料になりました』
呼吸器科 部長　山根 喜男

4 ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
手作りの栞や折り鶴をいただきました
かしま荘通信

第15回 かしま病院 認定看護師による勉強会

内容 せん妄の理解 そして 予防と対策

死亡までに70～90%のがん患者さんに生じると言われている『せん妄』。
一緒に学びを深めませんか？

講師 緩和ケア認定看護師　岡田 聡子

日時 2020年 9月16日(水) 18時00分～19時00分

会場 かしま病院 コミュニティーホール

対象者 主に医療、看護、介護に携わっている方。参加には事前の申込が必要です。

かしま病院の認定看護師が講師を務める、病院、診療所、施設などの現場で役立つ実践的な内容が盛り沢山の勉強会です。興味をお持ちの方は、かしま病院地域医療連携課（TEL.0246-76-0350）までお問い合わせください。

新型コロナ感染予防として、各施設2名までの受付とさせていただきます。

巻頭特集 新型コロナウイルスに係わる体制変更について

新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）の感染者が1月に日本で初めて確認されてから、半年以上が経過しました。いまだ終息が見通せない状況が続く中、感染対策としての在宅勤務導入などにより生活スタイルが大きく変化した方もいらっしゃるのではないでしょうか。当院でも日々感染対策を講じており、新たな取り組みの開始や体制の変更など、様々な変化がありました。今回は、新型コロナ対策のために院内で変更されたことの一部をまとめました。

新型コロナ対策本部の設置

院内で新型コロナ対策の中心として機能する対策本部が設置され、連日会議が行われました。対策本部は、日々更新される新型コロナ関連の情報収集や院内への周知、感染状況に合わせた対策の検討や実施など、幅広く活動しています。

施設設備の感染対策

病院、外来の受付にアクリル板を設置し、足元には順番待ちの待機位置がわかるように目印をつけました。待合場所の椅子の配置変更や、間隔を開けて座って頂くように座席にメッセージを貼り付けています。待合場所の雑誌を撤去して、感染源を減らす対策もしています。

施設設備の感染対策（アクリル板設置）

入院患者さんへの面会全面禁止、面会制限の実施

院外からの感染防止のため、3月9日より入院患者さんへの面会を全面禁止としました。その後、県内での新型コロナの感染が落ち着いていることから、7月1日より面会制限に変更しました。面会制限の内容について次項にまとめましたのでご確認ください。

2に続く

面会制限

- 面会は、家族用、または付き添い用の**面会証を持つ方**のみとさせていただきます。
- 面会証をお持ちでも、**感染流行地域からご来院の方**（当院から来院を依頼した方を除く）、**せき、発熱、下痢のある方、中学生までの方**は面会をお断りさせていただきます。
- 面会時は**マスク着用**の上、**検温、手指消毒、面会申込書への記入**をお願いします。
- 面会時間は**14時から17時まで**の間で、**約15分程度**でお願いいたします。人数は一日に**2名まで**とします。
- 面会時の**飲食はご遠慮**ください。

7月現在の面会制限の内容となります。面会制限の内容や面会方法は随時変更いたします。最新の面会状況は、電話でのお問い合わせや、当院ホームページをご確認いただきますようお願いいたします。

電話診療による処方箋発行の開始

厚生労働省からの通達により、条件に該当する患者さんに対して電話診療と処方箋発行が一定期間可能となりました。当院での電話診療の対象者や申し込みについては掲載スペースの都合上割愛させていただきますが、ホームページの重要なお知らせに掲載しています。電話診療をご希望の方はご確認をお願いします。

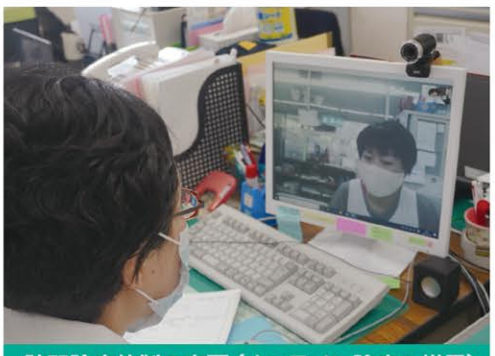
外来リハビリの実施場所の移行

新型コロナ流行前までは、外来リハビリの患者さんと入院中の患者さんは、どちらも病院のリハビリ室でリハビリを実施していました。しかし、同じ場所でリハビリを実施すると院外から院内へ感染のリスクが高まる恐れがあるため、5月11日より外来リハビリを原則中止としました。その後、リハビリの実施回数を減らしたり、時間短縮したりしながら段階的に受け入れをして、7月1日より外来リハビリの実施場所を「外来棟3階・通所リハビリ訓練室」に移行して通常通り再開しました。以前は外来で受付後に病院のリハビリ室へ行くために、建物の端から端まで移動する必要がありましたが、通所リハビリ訓練室は受付からエレベーターに乗ってすぐの場所にあるため、外来リハビリ患者さんの負担も軽減しました。また、入院中のリハビリ患者さんとの動線や空間を分けたことで、院内感染のリスクを低減させる取り組みが実施できました。

外来リハビリの実施場所の移行

訪問診療体制の変更

月2回実施していた施設への訪問診療体制を変更し、訪問診療1回、電話診療1回としました。電話のみで診察をする施設もありますが、オンラインツールZOOMやskypeが使用できる施設は、オンラインで画面を通しての診察が可能となります。これにより、施設を直接訪問しなくても医師が患者さん本人の様子を見ながら診察をしたり、施設職員さんからの相談に対面診療時と同じように対応できます。7月からは月2回の訪問診療に戻りましたが、今後の動向に応じて柔軟に診察できるようになりました。

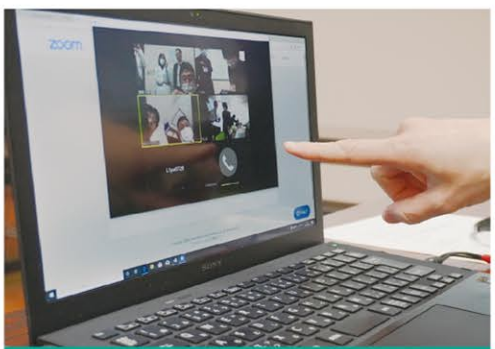

訪問診療体制の変更（オンライン診療の様子）

オンラインシステムの導入

大人数の職員同士の接触や、外部の方と対面して話をする機会を減らすため、オンラインシステムを導入しました。オンライン環境が整っていれば、直接会わなくても顔を見ながら話ができるため、感染リスクが低減されます。会議や研修等は、参加人数の制限やオンラインシステムを使用して実施をしており、3密を避けて打ち合わせや職員の教育をしています。

今回掲載したこと以外にも、一部外来の休止など様々な変化がありましたが、多くは7月までに通常通りの体制に戻りつつあります。しかし、地域によっては感染の第2波とみられる感染者の増加が続いています。今後も感染対策を継続しながら、状況に応じた柔軟な対応ができる体制を整えていきます。

受診や面会等に関して変更がありましたら当院ホームページ等でお知らせしますので、ご来院の際には確認をお願いします。


オンラインシステムの導入

糖尿病のおはなし

かしま糖尿病サポートチーム

インスリンについて 第1回

今月号と来月号の2回にわけて
インスリンについてお話します。

インスリンって何?

インスリンはすい臓から分泌され、体の中で唯一血糖値を下げることのできるホルモンです。食事をすると血液中の糖が増え、血糖値が上がります。糖は体を動かすエネルギー源として働きますが、その際に血液中から細胞の中に糖を取り込むのを手助けするのがインスリンです。インスリンは血糖値を調節してくれる働きがあります。

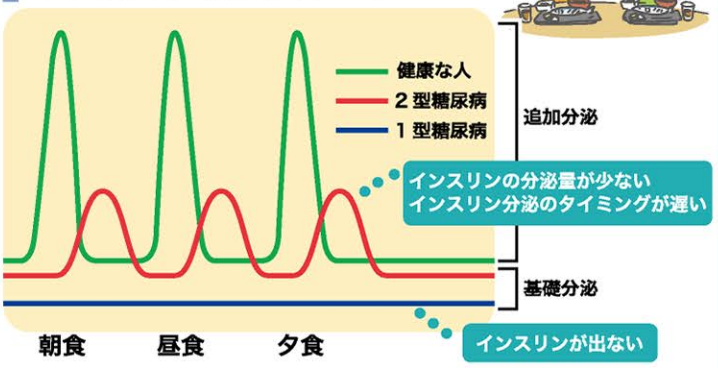
なぜインスリンを打たなければならないの?

図のように、糖尿病の人は「インスリンが出ない（出にくい）」「インスリンの出るタイミングが遅い」などの性質を持っていて、血糖値が高くなってしまいます。この性質は体質にもよりますが、肥満や生活習慣などによっても引き起こされます。そのため糖尿病の治療においては、まず食事療法や運動療法を行い、必要であれば薬物療法（飲み薬や注射）を行うというのが一般的な進め方になります。

また、インスリンは体の中で2つのパターンで分泌されています。1つめは「基礎分泌」と呼ばれ、食事をしていなくとも体の中でわずかに作られる糖に応じて分泌されるものです。二つめは「追加分泌」と呼ばれ、食事に合わせて上がる血糖値を抑えるために分泌されます。この分泌を補うためにインスリン注射が必要になります。

DMサポートチーム　薬剤師　後藤 聖加

健康な人と糖尿病患者さんのインスリン分泌パターン



※知りたい！糖尿病より引用

next 次号では、インスリン製剤についてお話しします。

ひんがら目(158)

プラスチック製のレジ袋が法律で有料になりました

レジ袋は本当によく出来ています。あんなに薄く軽量の袋なのに、かなりの重さに耐え、水を遮断し、中身に応じて形が変形し、使い終わったら小さく丸めて捨てることが出来ます。

でも、この手軽さがあだになりました。便利さゆえ大量に使用され、安易に捨てられ、海洋汚染の原因になったのですから残念です。

処理できないわけではないのでしょうが、なにぶんにも大量では環境汚染、地球温暖化にも悪影響を与えるのでしょう。だから使用を自粛しようとして3円取るようになりました。勿論、3円を取ることが目的ではなく、お客さんが買い物袋を用意してレジ袋を使用しないことが目標のようです。

しかし、有料化には例外があるようでして、バイオマスが25％以上含まれている袋であれば無料でよいそうです。植物由来がCO2総量を変えない素材であり、地球温暖化防止に寄与するためです。また、厚手のものも繰り返し使えるから無料です。

レジ袋には消費税がかかるようですので商品です。有害なものを禁止するのは国家の仕事ですから使用禁止というのなら納得できますが、料金を払えば使用は合法であるというのは妙です。

そもそもレジ袋の目的は何でしょう。一つは、買ったものをひとまとめにして容易に持ち運べること。スーパーやコンビニにふっと立ち寄って思いがけず大量に纏め買いをする場合、プラスチックのレジ袋で包装されると非常に重宝です。当初は店からのサービスでした。

もうひとつの目的は、会計済みの商品と未会計の商品とを区別し、万引きを予防する点です。店特有のレジ袋に会計済みの商品を入れて貰えば万引き防止になります。店からの要望とも言えます。

本屋さんなどではバッグを持参して買い物をすると万引きに間違えられないかと心配ですので、手ぶらで買い物をする癖がついています。料金を払って袋詰めされてセロテープで封をされると安心です。追加して商品を買うときにも気を使う必要がありません。しかし、マイバッグだとなんか後ろめたい気持ちがします。紙の袋なら無料ですが、簡易な紙袋では持ち手がなく、持ち手のある紙袋はコストが掛かります。そのため本屋さんも最近ではプラスチックの袋が多くなっています。雑誌などでは会計済みの印としてセロテープを張られたことが何度もありますが、本を愛する人間としてはその無粋さが許せません。ストレスが溜まりそうです。

地球温暖化、CO2削減なら、薄手のレジ袋よりはもっと減らせる厚手のプラスチック製品がたくさんある筈です。重量を考えればレジ袋は環境への影響は少ないようです。プラスチック製品を減らすつもりなら、レジ袋を作らなければ良いでしょう、有料にするのならその売り上げはそのまま環境税として徴収すべきであり、消費税をかけるべきではないでしょう。3円払いさえすれば環境汚染をしても構わないが、3円を出し惜しみする人には袋を使わせないというのは経済的差別です。

CO2削減計画を発展途上国にお金で助けて貰うのと同じ発想であり、強者の傲慢に映ります。

（呼吸器科　部長　山根 喜男）

ようこそ 家庭医療へ！

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～

第126回

コロナ禍を学びのチャンスに変えるには…

診療部 石井 敦

私こと、実は今年度から市医師会附属いわき准看護学校の副校長に任命されました。言わずもがな、生徒さんたちにとって今年度の幕開けは、新型コロナウイルスの影響で、実習や授業の延期が相次ぎ、思い通りにならないことの連続で、そのことは、私たち教員にとっても同じでした。世界的に猛威をふるい続ける新型コロナウイルス。私たちは今、このコロナ禍から「何を学び、どう行動すべきでしょうか？」1学期の終業に際して生徒さんたちに贈ったメッセージの内容の一部を紹介します。

私は以前から、そして今こそ「医療に携わる者は、医学教育を通して社会に貢献するべき」と考えています。医学教育といっても、それは必ずしも、学校や大学で行われるものだけではなく、医療従事者が、患者さんに行う指導や、一般の方々に行う啓発活動も含みます。つまり、一人ひとりが、医療のプロとして、自覚を持って正しく行動していくこと、それ自体が立派な医学教育になります。

「教育は未来への贈り物」という言葉があります。1人の医療従事者が直接的に関わることができる社会貢献はほんの僅かですが、教育を受け、巣立った人たち、それぞれが、それぞれの持ち場で社会貢献し、更に次世代の人材を育てていけば、教育のバトンを未来へ繋いでいくことができます。

いまの私から未来への贈り物があるとすれば、それは「ピンチをチャンスに！」という言葉です。現在、コロナ禍による不安と恐怖 が社会全体を覆っているように感じます。医療の現場でも先行きの見えないことが多く、それ故に、正論を振りかざして他者を厳しく批判したり、感情的になったり、という場面が多くみられます。不確実なことが大変多い状況にありますが、だからこそ、できるだけお互いの立場や状況を想像したり、配慮したりすることに意識を向けて欲しいのです。社会が混乱している今だからこそ経験できる、学びのチャンスが、そこら中に転がっています。患者のケアに携わる者にとって、こういった経験の積み重ねが、いつかかけがえのない財産になるはずです。

夏休み期間中、生徒さんたちが医療人としての自覚を忘れずに行動し、コロナ禍を自身が成長するチャンスととらえ、来学期には人間としても、医療人としても、より成長した姿で登校されることを期待しています。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。

リハビリPOST 第113回

介護医療院について

先月号では地域包括ケア病棟を紹介しました。今月号では当院東 3 階にある介護医療院という院内施設についてご紹介させていただきます。

この施設の特徴としては、利用者様に対して「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と「生活施設」を提供する事です。そして医師の配置が義務づけられていて、医療ニーズの高い要介護者の方にも対応が可能です。また人生の最終段階におけるケア（看取り）を支える役割も担っています。部屋はパーティションや家具で仕切られているため、2人部屋であってもプライバシーが守られるのも介護医療院の特徴の 1 つです。医療ケアの内容としましては、喀痰吸引や経管栄養、投薬や処置、検査などを必要に応じて提供することができます。また、リハビリテーションスタッフも配置されているため、生活機能の向上のためのリハビリを受けることも出来ます。介護サービスの内容としましては、他の介護施設と同様に、入浴・排泄・食事の介助などのほか、洗濯や掃除といった日常生活上の世話も行われます。

入居の条件としては要介護認定を受けている要介護 1 ～ 5 までの方という決まりがありますが、医療的ケアがあるため、特別養護老人ホームなどの介護施設で入居を断られた方や、医療区分 1 で療養病棟に入れない方にとっては、無くてはならない施設となっております。

来月号では、急性期後に転棟する病棟の一つ、回復期病棟について紹介させて頂きます。

言語聴覚士 渡邉 正太

～当院の介護医療院の療養室～

かしま荘通信

レクリエーション - クレープ作り - 7/9(木)

７月９日、レクリエーションの一環として利用者様と職員で一緒にクレープ作りをしました。クレープの生地作りから始まり、焼き加減を見たり、好きなトッピングを選んだりと、手作りならではの楽しみを味わえたようです。

できあがったクレープを食べながら自然と皆さんの笑顔もこぼれ、職員も一緒に和やかな時間を過ごす事ができました。

手作りの栞や折り鶴をいただきました。

ある患者様からいただいた手作りの品々です。
ご自分の病状がお辛い時も、私たち医療従事者をほっこり笑顔にさせてくださる愛情いっぱいのお心遣いに、深く感謝しております。
今、こんなときこそ笑顔で過ごせる日々が多くありますように・・・。